

平成 29 年度河南町総合戦略推進会議 議事要旨

日 時：平成 30 年 3 月 14 日（水）14 時～16 時 30 分

場 所：河南町役場 4 階 大会議室北

出席者：委員 14 名／欠席委員 8 名、事務局 5 名、傍聴人 2 名

1. 開会

事務局

- ・平成 29 年度河南町総合戦略推進会議を開催します。
- ・委員定数 22 名のうち、過半数の 13 名の参加で会議成立の報告。また、「河南町審議会等の傍聴に関する要領」により 1 名の傍聴を許可。
- ※会議終了時点では、委員 14 名、傍聴 2 名。

2. 町長あいさつ

武田町長

- ・お忙しい中、出席していただきありがとうございます。
- ・総合戦略推進会議は平成 27 年度に 5 回開催。28 年度に 1 回開催。当初、委員の皆さまには 2 年間ということので就任をお願いしておりましたが、引き続きそのままお引き受けくださり本当に有難いと思っています。

3. 委嘱状交付

- ・町長より委嘱状の交付。

4. 委員紹介

- ・各委員より名簿順に自己紹介。
(町長退席)

5. 案件

(1) 会長・副会長の選出

事務局

- ・具体的な案件に移ります前に、新たな委嘱に基づく最初の会議ですので、あらためて会長及び副会長の選出を行いたいと思います。皆様の互選により、会長・副会長を選出する必要がございますが、いかがいたしましょうか。

委員

- ・昨年等の会議では、柿沼先生にはとてもお世話になりました。我々至らぬ人間でも参加させていただいている訳ですけども、上手に最後までまとめていただいたということで、出来ればこのまま続けて柿沼先生にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。
(異議なしの声あり)

事務局

- ・異議なしとの声をいただきましたので、会長はこれまで同様、柿沼先生にお願いしたいと思えます。
- ・続いて、副会長はいかががいたしましょうか。

委員

- ・会長が柿沼先生ということで決まりましたので、出来れば副会長につきましても引き続き榎野区長にお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。
- (異議なしの声あり)

事務局

- ・異議なしとの声をいただきましたので、副会長はこれまで同様、区長会会長の榎野委員と決定させていただきました。

柿沼会長

- ・就任のご挨拶

事務局

- ・推進会議規則第5条第1項の規定により、以下の議事進行は柿沼会長にお願いします。

(2) 地方創生関連事業の取り組み状況について

事務局

- ・資料1を用いて説明
 - ①トカイナカナン定住促進計画について
 - ②地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金の取り組み概要について
 - ③KPIについて
- (RESASの定義変更により休日滞在人口のKPIを変更。

目標 H29:12,000、H30:12,400、H31:12,800、H32:13,200、H33:13,600)

柿沼会長

- ・事務局からも先程お話にありましたとおり、一部実績に見込みが含まれておりますが、おおむねの状況につきましては皆さんご理解いただけたかと思えます。ご説明ありましたように、交付金を活用してさまざまな事業に取り組んでおられて、人口の社会増減について飛躍的な伸びなど、地方創生について効果があったということ、最後ご説明あったようにKPIの一部修正に皆さんご異議ありませんでしょうか。

(異議なし)

そうしましたら、数値の置き換えなど必要な手続きは事務局に一任したいと思います。

(3) 平成28年度の重要業績評価指数(KPI)について

事務局

- ・資料2を用いて説明(KPIについて主だったものを各章1~2つ説明)

委員

- ・かなんフェスとか桜まつりとか別々に開催しているが、まとまってできないものか。申込等がバラバラの部署になっているので大変。質問①

委員

- ・桜まつりは季節があって4月、かなんフェスは11月頃開催している。平成17年頃はイベントをもっと開催していたが行革で集約し、ほとんどのイベントを辞めた。その後、大阪ミュージアム構想の流れからかなんフェスが誕生し、この2つになっている。桜まつりは桜の時期があるので時期は動かせない。もっと集約することも考えていかないといけないし、新たにPRすることがあればしていきたい。

柿沼会長

- ・p.35を見ても、かなんフェスの参加者数が減っているのが分かる。

槇野副会長

- ・今年は天候が悪かった。

委員

- ・イベントの集客に戦略がない。

柿沼会長

- ・申込等については、たらい回しにならないよう、イベント窓口の研究を。
- ・「道の駅かなん大阪産友の会」とはどういうものか。質問②

委員

- ・5年前にできた。大阪産のものを広げていこうという取り組みで、道の駅かなんの利用者が年々増加しているのもあり、道の駅かなんを応援してくれる一種のファンクラブとして取り込んでいこうというもの。買い物をするとポイントが貯まったり、農業体験・収穫体験をできる特権がついていたりする。

柿沼会長

- ・PRはあまりされていないのか。

委員

- ・大々的にはPRできていない。道の駅かなんに来られた方にPRしている。入会金が必要となってくるところがあり、なかなかPRしにくく、改善の必要があるとは思っているところ。

委員

- ・平成29年かなんフェスの場所が悪い、狭い。ステージの段差が危ない。役場でした時は、池が危ない。運動場とか広い場所で開催したらどうか。ステージは出演料はいらないが、申込みも少ない。楽しいイベントにする努力が必要なのではないか。質問③

槇野副会長

- ・かなんフェスは、今までいろいろな場所でいろいろな季節で開催し、トライアンドエラーであった。どこで開催するにも一長一短がある。

委員

- ・試行錯誤の中で、よくここまで育ってきたという印象を思っている。近つ飛鳥博物館は、建物そのものが観光資源となっているので、あの建物でするのは意義があるものだと思う。その半面、いまの意見にあった面もあるなら改善する必要があると思う。

委員

- ・場所がいいと思っている。駐車場の半分を使用して、半分は車を入れていた。それなら車を入れない方がよかった。

委員

- ・大きなイベントをするには、駐車スペースが足りないのは事実です。

委員

- ・p.14「笑顔いきいき」かなんで3つの施策を挙げているが、転入者数の増加にどの施策が効果があったのか。効果があるところに力を入れていく必要があると思う。住民登録をする際に、なぜ転入したかのアンケートをとって、施策に活かすのが大事。質問④

事務局

- ・「人々がつながり、多様な世代が交流・活躍できる地域づくり」の中で、柱となる施策として、平成28年度から3世代同居・近居支援事業で新築100万円、リフォーム50万円の補助をしている。この効果があったと感じている。
- ・転入・転出の際のアンケートはすでに実施している。今回はお示し出来なかったが、次回は統計的なものを示す。

柿沼会長

- ・3世代同居・近居支援事業は件数などの上限を設けているのか。

事務局

- ・上限は今のところは設けていない。財源に限りがあるので、細かい話をすると途中で予算額を増やして補正している。平成28年度から事業を開始し、29年度は増えてきているので、住宅業界からの情報も流れていると思う。

榎野副会長

- ・p.26(5)-①-4で、もう少し内容を掘り下げて書いていただけたら皆さんにも分かりやすくなると思う。政府のほうから多面的機能支払交付金ということで色々な助成を受けている。これは、今ある農地を維持管理していくためのもの。もうひとつは、土地を管理できなくなった人から中間管理機構が土地を集めて区画整備をし直して、大きな土地として耕作者に耕してもらような助成を農林水産省は進めている。質問⑤

委員

- ・小学校の統廃合によって、廃校になるところを宿泊施設にリニューアルして、農業体験ができるような施設に活用していくという案もあると思う。町民だけでなく、外から来られるような活用方法を検討していただければと思う。

委員

- ・農業体験は都会のひとから見ると魅力があると思うので、もっとアピールが必要。河南町はまだまだ田舎なので、仕事がない。働きたい女性がたくさんいる。先を見据えて、建物を立てるとかではなく、自然を活かした観光と繋がった雇用を生み出すのがいいと思う。

榎野副会長

- ・農業の取り組みには、2つある。小さな区画に都会の人が来ていただいてという観光農園的なやり方と、河南町にはないが真っ直ぐな道路の両側に真四角の田んぼをできるだけ増やして大規模とする農業とがある。河南町もそういう方向にもっていけないかなと思う。

柿沼会長

- ・既成概念にとらわれない雇用、たくさんある土地を活用していくことが大切。

委員

- ・河南町も「ちはや姫」のような取り組みをしていけばいいと思う。

委員

- ・いちごは名前がそのようになったが、河南町で生産している。道の駅でもいちごを売っていているので、町としては心苦しいところ。
- ・観光は戦略のなかでたくさん出てくるキーワードで、農業体験や観光スポットなど色々あるが、町にとって最善の方法で住む人・来る人の活気を作っていきたい。いろんなご意見がある中で、できることからやっていきたい。

委員

- ・空き家や空いた農地を無償や安いお金で転入してきた方にお貸しして、農業の楽しみを知っていただいて、定住に結びつく施策をすればいいと思う。

榎野副会長

- ・実際に空き家のところに就農で来られている方も居る。その方をうまく定住に繋げていければいいと思います。

委員

- ・新規就農の方に、所得を安定させるため最大5年間、年150万円の助成などをしており、この施策もこの中に入っている。

委員

- ・p.8 芸術村について、具体的に知りたい。芸大との連携は他市町村とは違う魅力を作り出せると思う。質問⑥

柿沼会長

- ・包括協定については、まだ締結していない。出来れば計画にあるとおり、2年以内に結んでいきたい。芸術村というのは、事務局で作られた言葉。芸大関係者は、芸大の学生が多く住んでいる大宝・一須賀・東山周辺を指して、芸村と呼んでいる。民間企業等と協力して、関大周辺のストリートで学生が行くお店があったりするイメージで、芸大に隣接する一須賀や東山辺りで出来ればよいが、具体的な計画としては芸大側として進んでいない。包括協定の中で町と一緒に進めていきたい。サンプル前に歩道の設置など改革していきたいと思っている。

(4) 平成29年度及び平成30年度の地方創生の取り組みについて

事務局

- ・資料3を用いて説明（平成29年度30年度を中心に具体的な取り組みを抜粋して説明）

柿沼会長

- ・平成30年度が町長選挙の関係で空白が多いが、今後埋まっていくと考えてよいか。質問①

事務局

- ・ある程度埋めていく。

委員

- ・p.10、ふるさと納税は返礼品をポイントで貯めて後から使えるものか。質問②

事務局

・ポイントタイプではなく、その時に返礼品を選んでもらって返している。

委員

・ポイントタイプの方がいい。ポイントだったら1年2年貯めて欲しいときに使える。

委員

・ふるさと納税の制度としては、平成29年11月から住民の方への返礼品を取りやめている。返礼品は、ポイント制と現行制度どちらがいいかは賛否あると思う。ポイント制のふるさと納税サイトに変えるとなると経費の問題等もあり難しい。

委員

・資料2のp.13、市街化調整区域の見直しは進んでいるのか。質問③

事務局

・先ほどから雇用の創出の話が出ていたと思うが、まさに地方創生の取り組みだと思っている。河南町内はほとんどが市街化調整区域で、新たな企業の立地ができないというのが現状。規制緩和を要望したり、府と勉強会をしながら検討している。

委員

・町はほとんどの権限がない。調整区域として農業を発展させるというのがあると思うが、調整区域だけで発展するとは思えない。町だけでは難しいかもしれないが、市街化区域と調整区域の別立ての施策を重点的にしていかなないと町は発展していかないと思う。粘り強く府に要望していただきたい。

事務局

・毎年、大阪府議団、自民党、維新、公明党等に要望を出している。直接府のいろんな課の職員に町の要望を聞いてもらって、答えをいただいている。町長からも直接副知事等にお願ひして、勉強会ができるようになっている。オール河南町で頑張っている。

委員

・スライド（参考資料）について、子育て世帯を呼び込んでも、子どもが育って町外に出て行っていたら意味がない。質問④

事務局

・移住定住の施策において、どの層にターゲットを置くかは大事。生産年齢人口が増えると単純に考えると税収が増えるので、その層を取り込んでいきたい。町がしている施策として、子育て・教育の環境を整えることで住みよいまちづくりをしている。子どもを抱えた若い世帯が入ってきて、子どもが成長して20～24歳の層が進学・就職の関係で出て行っても、親も一緒に出ていくとは限らない。アンケートの転出理由で一番多いのは、交通が不便。駅を持ってこられれば良いが、行政だけでは難しいところ。その中でも町が出来ることとして、地域公共交通の取り組みを27年度から本格化している。駅に直行しているバスではないので、結果に直結することは難しいかもしれないが、転出された方の意見を踏まえて、長く河南町に住める、高齢者も健康寿命を伸ばして元気に河南町に住み続けていただくという施策を取っている。子育て、福祉関係、交通関係の整備、オールジャンルオール河南町で取り組んでいるのが現状。

委員

・寺田北から長坂のところは開発できるようになっているが、増えたのは資材置場やバス置場くらいで、開発がしれている。

柿沼会長

- ・市街化調整区域で農地が多いので、やっぱり若者が就農するのが一番良い。河南町だけの問題ではないが、若者の中で農業のハードルが高く、業として一生取り組もうと思う人が少ないのが難しいところ。

委員

- ・農業は個人がしていたら、外国に勝てない。法人化して農地をまとめて、そこに勤めて給料でもらう形にしないと。

委員

- ・農業法人について、これからどんどん進めていきたい。日本の農産物は価格が高いにも関わらず海外で売れているように、日本農業の良さ（安全・安心）を活かした法人なども出来ている。そういう法人も大事だが、農協としては、道の駅でしているような産地直売や都会から来て農業をしたいという方々を育てていくという動きをとっている。

6. その他

- ・なし

7. 閉会

以上